

平成30年度 事業報告書

大慈幼保連携型認定こども園

1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。

2. 《平成30年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
→子どもが自ら興味を持って取り組むことが出来るよう保育の検討を重ねた。
- ②本園と分園の連携を密に図り、豊かな教育保育が行えるようにする。
→職員間の連携を密に図り、一緒に教育保育が行えるよう努めた。
- ③特色・サービスの視覚化を進める。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者と職員との交流を深めた。
 - ・地域の施設・学校・関係者に園だよりなどを配布し、園を知っていただくよう努めた。
 - ・湊川神社への避難訓練時、腕章をつけて、地域の方にも知っていただいた。
 - ・園庭開放、子育て広場にも遊びに来ていただいた。
 - ・園庭開放ポスターを病院等に掲示していただいた。
- ④資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
 - 研修報告を行い、共通理解し園全体で取り組むことができた。
 - 6月28日、8月28日4園合同で「子どもの主体性を伸ばす」研修を行った。
 - 11月23日、4園合同で、「保護者対応」について研修を行った。
- ⑤人材確保・定着に努める。
 - 神戸市就職フェア・兵庫県就職フェア・神戸市バスツアーに参加し、確保に努めた。
- ⑥特別な配慮・支援の必要な子どもへの理解を深め、多角的にアプローチする。
 - 必要に応じて、絵カードや個人対応等、個々に合わせて対応した。
- ⑦子育てサロンを通して、地域の子育て支援を深めた。
 - 子育てサロンを開催し、ちょっとした子育てのヒント等を伝えた。
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - 各園の会議だけではなく、チーム会議で話し合い、全園で情報を共有し、安全を確保した。

3. 《地域貢献事業報告》

- ・8月 地藏盆
- ・11月 お楽しみ会
- ・12月 おもちつき
- ・毎月 基本第4土曜日 子育てサロン開催

4. 《修繕・購入報告》

- ・とも分園 ピアノ購入

5. 《行事報告》

年間行事

月	行事名
4月	入園式
5月	春の遠足（5歳児）
6月	お楽しみ会 歯科教育指導
7月	全園児プール開き 七夕祭り ワークキャンプ受け入れ
8月	地藏盆
9月	お泊り保育（5歳児） 遠足
10月	運動会 秋の遠足（全園児）
11月	作品展 参観ウィーク お楽しみ会 津波避難訓練
12月	音楽会 クリスマス会 おもちつき
1月	六甲山そり遊び遠足（5歳児） お楽しみ会
2月	よいこの集い 生活発表会 ピドスコープ撮影
3月	お別れ遠足（全園児） お別れ会 卒園式 津波避難訓練

月間行事（月1回）

お誕生日会 子育て支援事業 防災訓練 防犯訓練 発育測定

その他

- ・盲学校幼稚園部児童との交流 週1回
- ・事故対応訓練（SIDS・プール事故・アレルギー対応）
- ・消火器 火災報知器の点検 年2回
- ・消防署による消防訓練 年1回
- ・警察署による交通安全教室・防犯訓練 年1回
- ・消防署への避難訓練報告 年1回

6. 《保健衛生報告》

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児4・5月、11月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	5月・11月 年2回
園児耳鼻科健診	5月 年1回
園児眼科健診	5月・2月 年2回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員・保育教諭全員検便	㈱有研により月1回以上
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップの清掃	乾商事により年4回
エアコン・換気扇の清掃	乾商事により年1回

7. 《平成30年度在籍児一覧表》（ ）は分園

2・3号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	9 (7)	25 (9)	25 (9)	24 (9)	25 (8)	23 (9)	131 (51)	114%
5月	9 (8)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (8)	23 (9)	132 (52)	115%

6月	9 (8)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	23 (9)	132 (53)	116%
7月	9 (8)	25 (9)	25 (9)	25 (8)	25 (9)	23 (9)	132 (52)	115%
8月	9 (8)	25 (9)	25 (9)	25 (8)	25 (9)	23 (9)	132 (52)	115%
9月	9 (7)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	23 (9)	132 (52)	115%
10月	9 (8)	25 (9)	24 (9)	24 (9)	25 (9)	23 (9)	130 (53)	114%
11月	9 (8)	25 (9)	25 (9)	24 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (53)	115%
12月	9 (8)	25 (9)	25 (9)	24 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (53)	115%
1月	9 (8)	25 (9)	25 (9)	24 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (53)	115%
2月	9 (8)	25 (9)	24 (9)	24 (9)	25 (9)	23 (9)	130 (53)	114%
3月	9 (8)	25 (9)	24 (9)	24 (9)	25 (9)	23 (9)	130 (53)	114%
合計	108 (94)	300 (108)	297 (108)	293 (106)	300 (106)	276 (108)	1574(630)	115%

1号認定こども

	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	5	5	4	14	93%
5月	5	5	4	14	93%
6月	5	5	4	14	93%
7月	5	5	4	14	93%
8月	5	5	4	14	93%
9月	5	5	4	14	93%
10月	6	5	4	15	100%
11月	6	5	4	15	100%
12月	6	5	4	15	100%
1月	6	5	4	15	100%
2月	6	5	4	15	100%
3月	6	5	4	15	100%
合計	66	60	48	174	97%

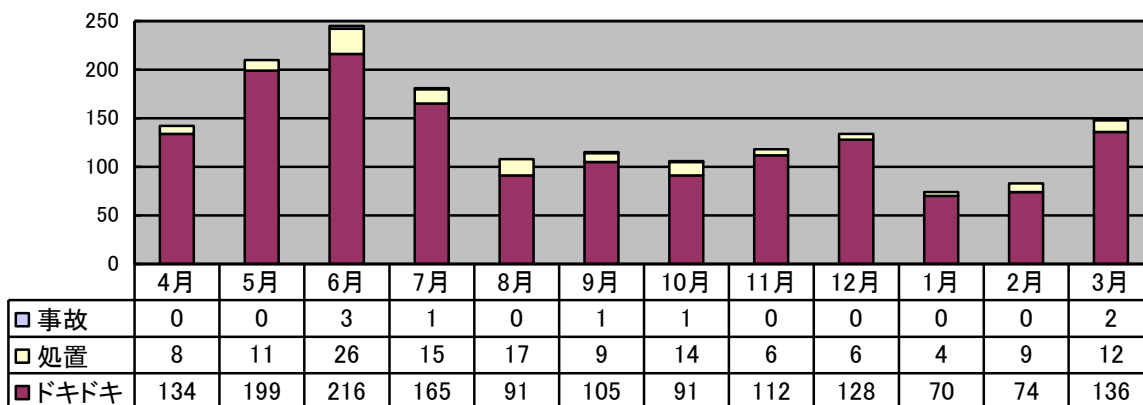
8. 《リスクマネジメント報告》 本園

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

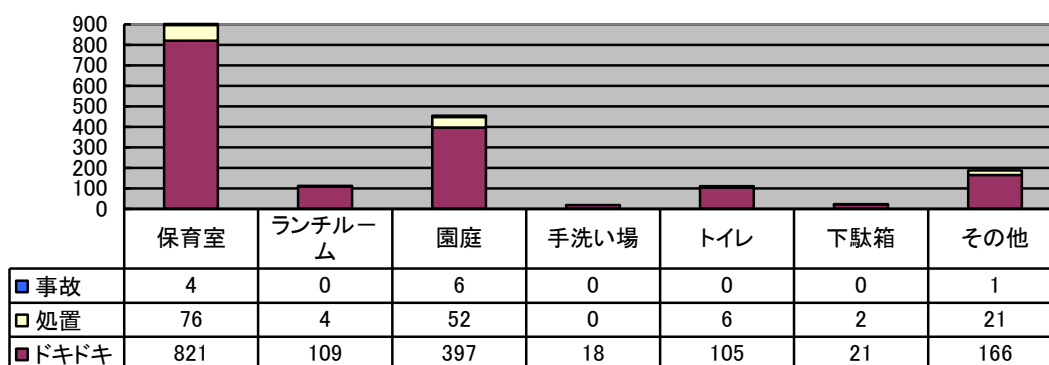
平成29年					平成30年度				
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置
	1,596件	9件	1,445件	142件		1,666件	8件	1,521件	137件

28年度 1,349件 (事故 8件、ドキドキ 1,341件)
27年度 701件 (事故 9件、ドキドキ 692件)

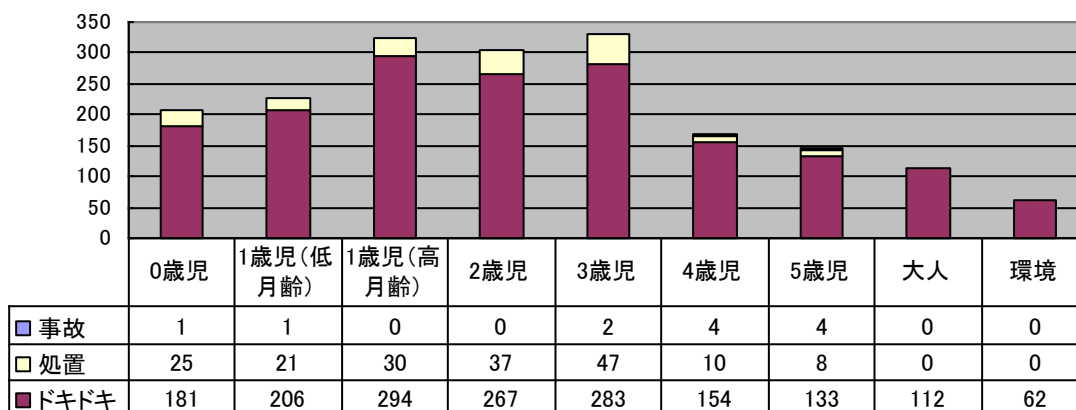
①月別発生件数



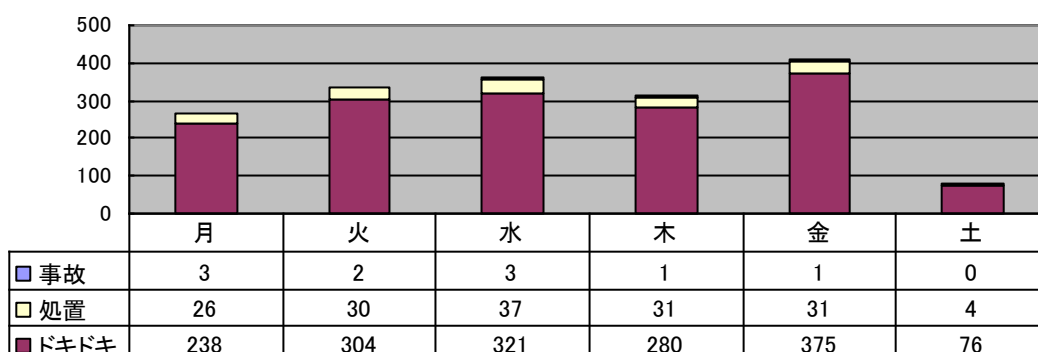
②場所別発生件数



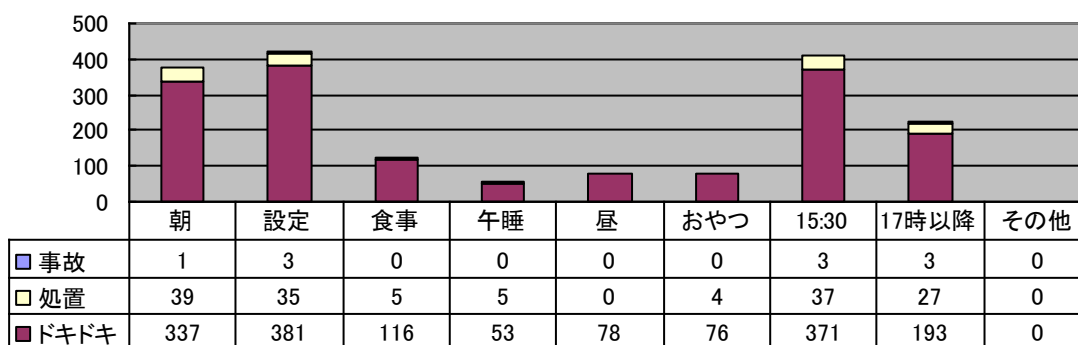
③クラス別発生件数



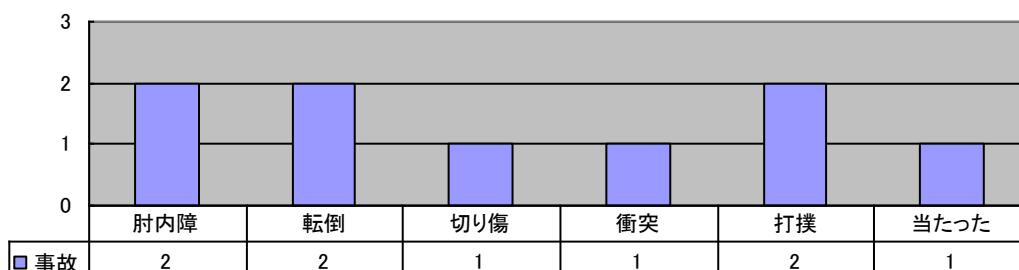
④曜日別発生件数



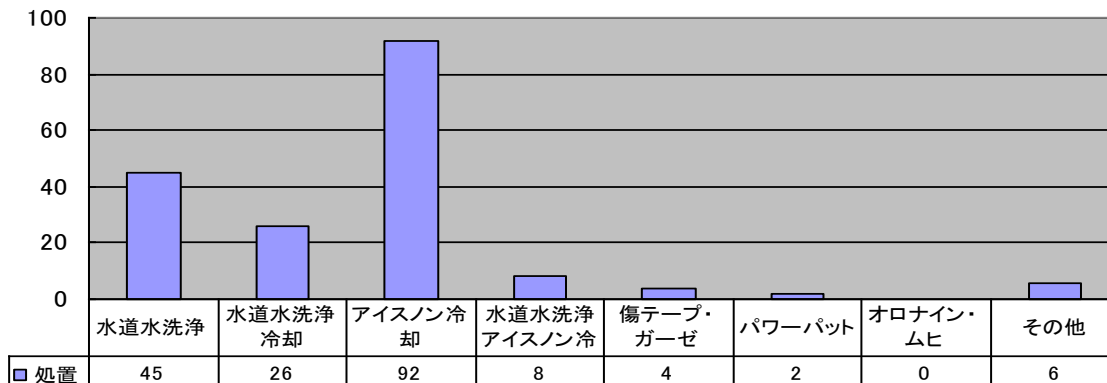
⑤時間帯別発生件数



⑥事故発生内容



⑦処置内容



⑧まとめ

全体の件数として、新しいクラスに慣れ始めた5、6月が多かった。
 乳児は噛みつきや、自分で扉を開けて部屋から出ようとするなどのドキドキが、
 幼児は友だちとの関わりで揉めることや周りが見えておらず人や物にぶつかるドキドキが多
 くあがっている。
 また、今年度は除去食を本来とは違う子どもの場所に置く、書類の片づけ忘れなどの
 大人、環境におけるドキドキが多く見られた。

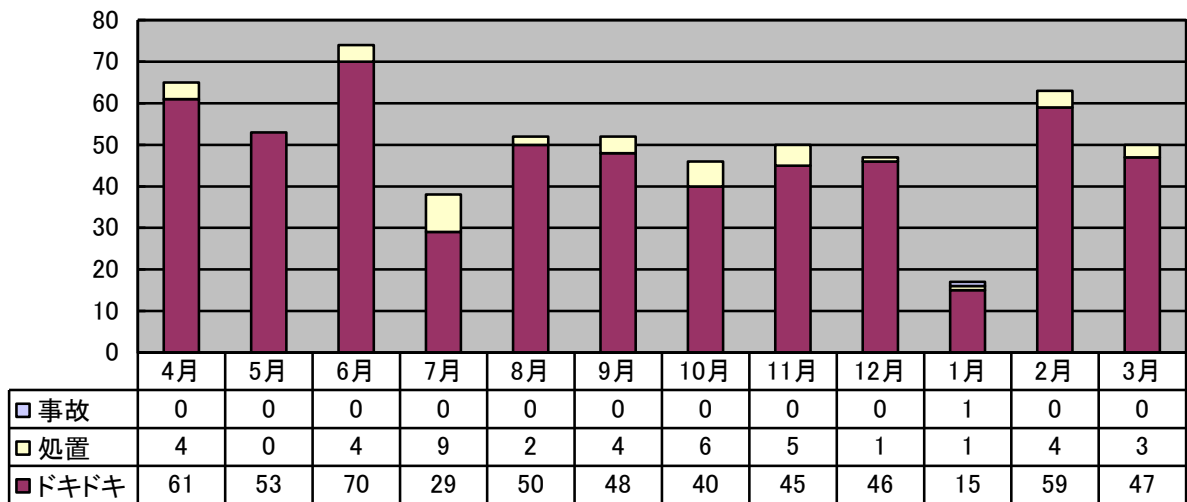
《リスクマネジメント報告》 とも分園

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

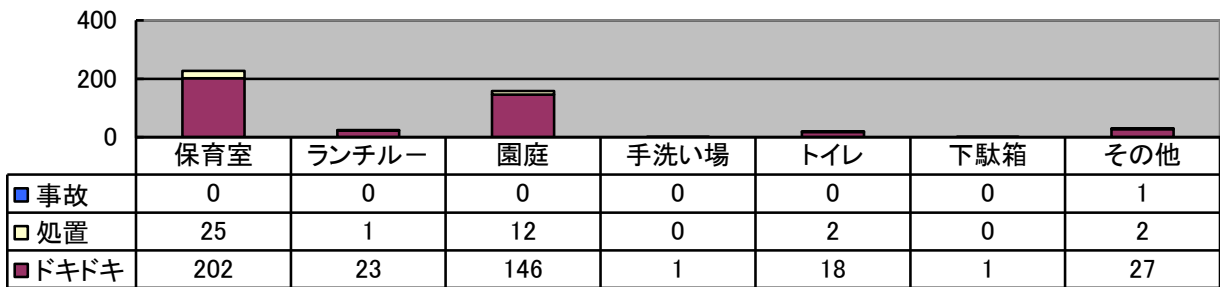
平成29年度					平成30年度				
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置
	615件	1件	584件	30件		607件	1件	563件	43件

28年度 616件 (事故 2件、ドキドキ 584件)
 27年度 632件 (事故 5件、ドキドキ 627件)

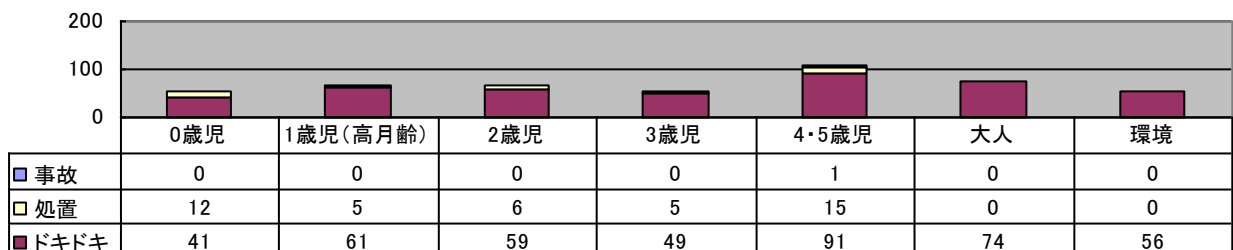
①月別発生件数



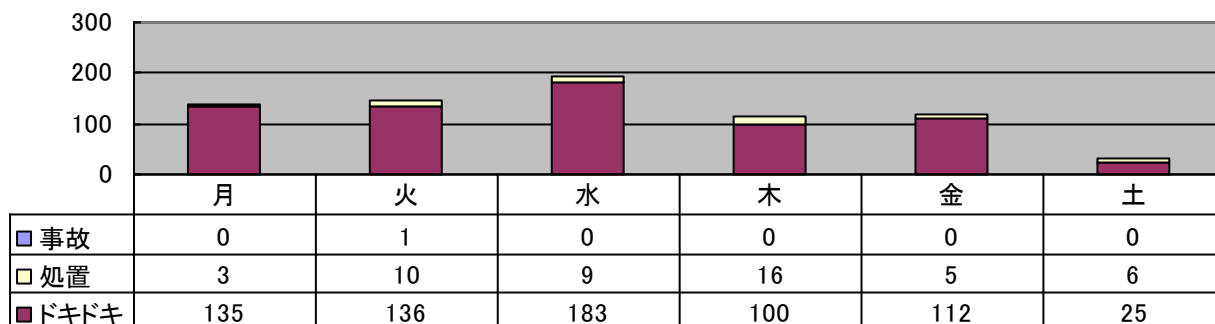
②場所別発生件数



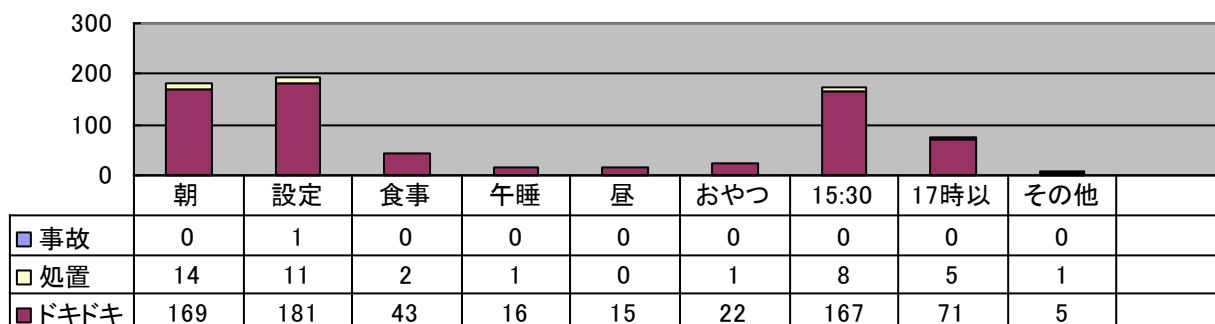
③クラス別発生件数



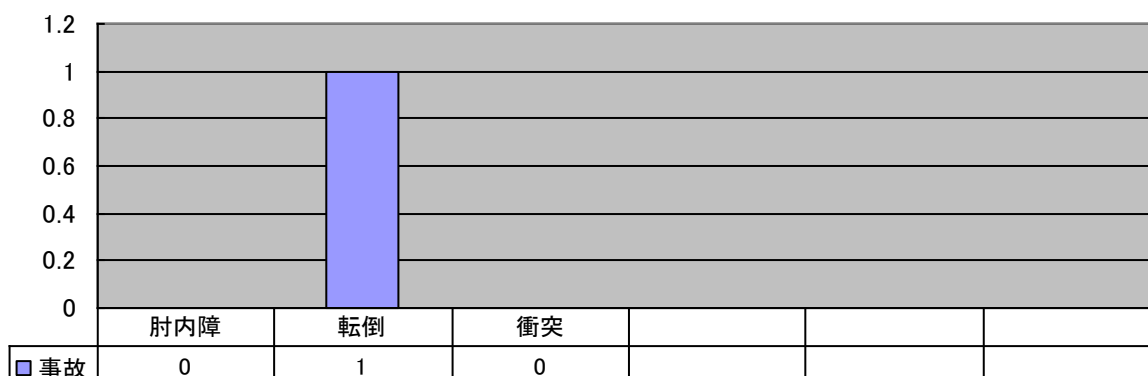
④曜日別発生件数（土曜日は本園で保育）



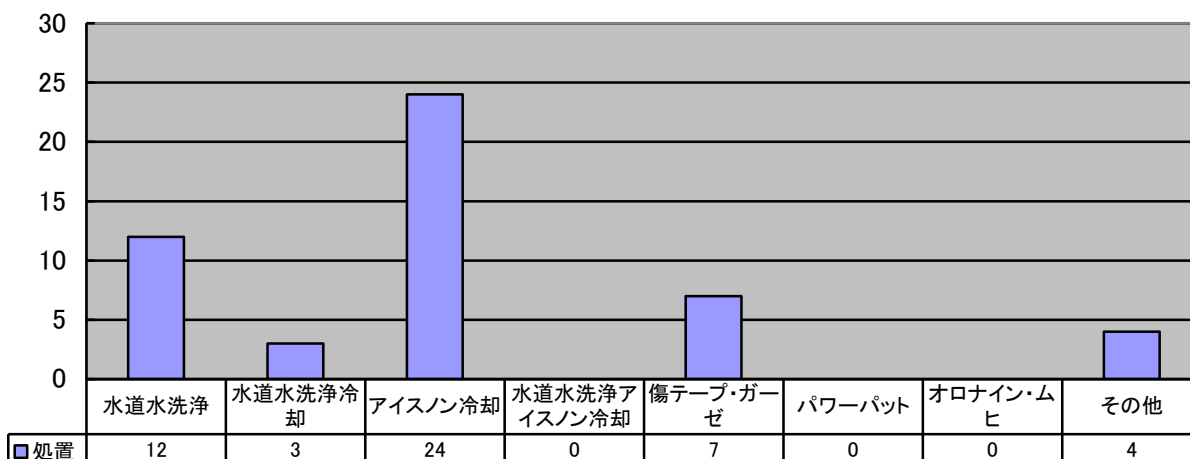
⑤時間帯別発生件数



⑥事故発生内容



⑦処置内容



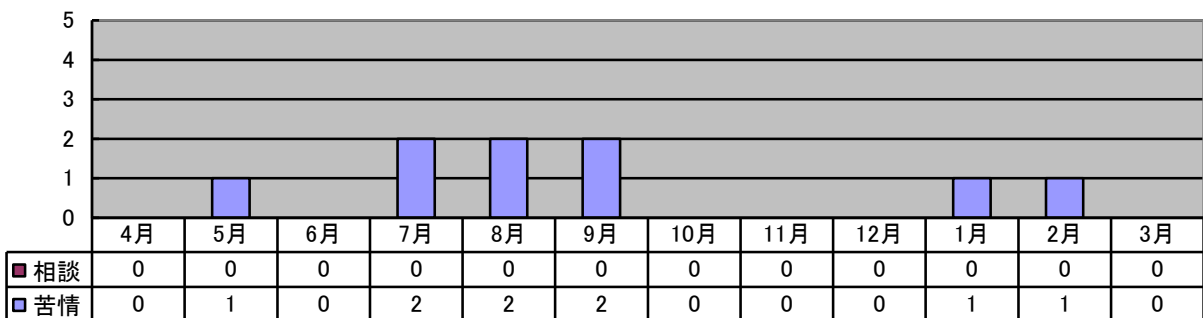
⑧まとめ

乳児の噛みつき、設定保育の時間帯、保育室など同じケースのドキドキが多く出ている。幼児は友だちとの関わりで揉めることが多い。大人による片付け忘れなどのドキドキが多くみられた。年々ドキドキが減ってきている。行事前は特に少ない。職員に余裕がないことが原因だと考えられる。記入できる方法を職員一人一人が見直し、全職員でドキドキを共有できるようにすることが次年度の課題である。

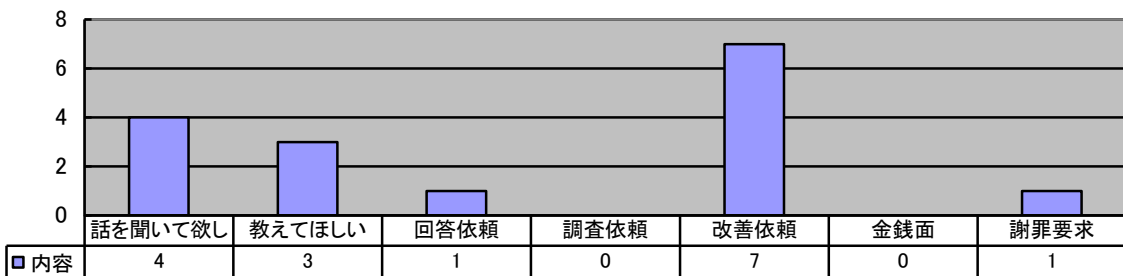
9. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

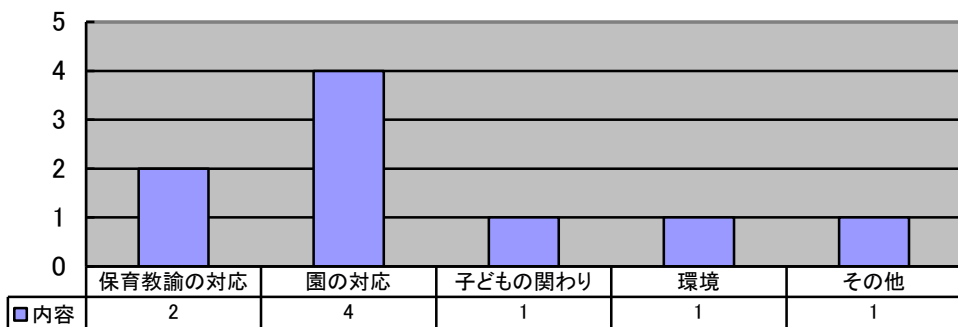
○報告件数・・・9件（本園6件 分園3件）



要望分類



主な内容



○まとめ

熱中症対策に関する苦情が2件あった。異常気象が起きている場合は対策についてこまめに検討し対策方法の周知徹底や子どもの様子に合わせて臨機応変に対応していく。

保護者とのコミュニケーション不足による苦情が数件あった。日頃から保護者との何気ない会話を大切にし、疲れていたり、育児に不安を感じている保護者に寄り添うことの大切さを感じた。

10. 《総括》

今年度は、警報発令における対応が多かった。

本園は、津波による浸水想定地域・河川の氾濫による浸水地域になっている。

とも分園は、津波による浸水地域になっている。

9月の台風の際、本園地域に避難指示が発令され、大変危険を感じた。

子どもの命を守ることを第一に考え、事前に臨時休園にする判断が重要だと痛感した。

今後も、自然災害への対応が必至になると思われる。

よい子ネットやSNSを活用し、保護者への連絡を小まめに取り、安全を確保したい。

また、夏が異常に暑いので、環境や時間設定を考え保育にあたり、子どもの体調をよく把握するよう努めたい。

ここ数年で教育が変化し、主体性を伸ばすことがとても重要になっている。

園でも子どもたちをよく観察し、自ら活動できるような環境を構成したり、異年齢の関わりを増やし意欲に繋げたいと考える。